

調書1 補助金等調査表（チェックシート）

所属 生涯学習課

(1) 補助金の内容

名 称	浦安市華道協会活動補助金		
交 付 開 始 年 度	昭和56年度	終了予定年度	
交 付 先	浦安市華道協会		
交 付 の 目 的 ・ 必 要 性	華道を通じて浦安市の文化発展の為に寄与し会員相互の親睦を図り、かつ斯道の昂揚を目的としており、社会教育の推進に貢献しているため。		
対 象 事 業 の 内 容	○いけばな展 ○研修会 ○市役所、各公民館飾花		
形 態	<input checked="" type="checkbox"/> 事業補助 <input type="checkbox"/> 運営補助 <input type="checkbox"/> 混合補助 ⇒ 割合が大きいのは <input type="checkbox"/> 事業補助 <input type="checkbox"/> 運営補助		
直 近 の 見 直 し 状 況	見直した時期	令和3年度	
	内 容	補助額20%の削減を行った。	
交 付 申 請	受領書類	■ 事業計画書 ■ 収支予算書 その他（名簿、会則）	
	確認内容	事業計画、予算、補助対象費	
実 績 報 告	受領書類	■ 事業報告書 ■ 収支決算書 ■ その他（事業報告書・領収書・通帳）	
	確認内容	補助金対象事業内容と経費の適正にうちて確認を行った。また、領収書、通帳の写しより補助金の使途が明確であるか確認を行った。	

補助金等調査表（チェックシート）

（2）補助金見直しの基本視点に基づく評価

（※具体的な根拠指標には、設問に対する評価根拠となる、成果等を示す数値的な指標を記載すること）

公益性	補助事業が、客観的に見て、より広く市民等に利益をもたらす、または還元されている。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標 会の目的が会員相互の親睦を図り、かつ斯道の昂揚を目的としており、華道を通じて文化芸術の発展に寄与していることから市の社会教育の推進に貢献している。
	補助事業の目的が、時代や社会情勢に合っている。	やや合っている	華道を通じて浦安市の文化発展の為に寄与し会員相互の親睦を図り、かつ斯道の昂揚を目的としており、社会教育の推進に貢献している。
必要性	補助金を交付する形で、市が関与する妥当性がある。	評価	「ある」→妥当性について記入。 「ない」→妥当性がないにも関わらず補助する理由を記入。
		ある	文化芸術活動を通して社会教育に貢献している公益性のある団体であるため、妥当性がある。
	補助金がない場合、団体等は自主財源で事業を行うことができない。	評価	「できる」→自主財源で事業実施可能にも関わらず補助する理由を記入。 「できない」→補助金がなければ事業を実施できない理由・具体的な根拠を記入
		できない	自主財源のみで行うとすると会員の大幅な負担の増額に伴い積極的な活動ができなくなり、音楽文化の衰退につながりかねない。
	市民ニーズが高いものである。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		やや高い	「いけばな展」や日本文化体験会などを行うことで、文化伝統を継承する活動を行っていることから市民ニーズはある。
	市民ニーズに即している。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		やや即している	これまでの実績として、「いけばな展」、施設内でのいけばなの展示、「2020東京オリンピック車いすバスケットボール女子英国代表歓迎に伴う日本文化体験会」などを行っており、文化伝統を継承している。
	補助金の意義について、的確に説明できる。	評価	「できる」→誰に対しどのような効果があるか等について記入。 「できない」→説明できない理由について記入。
		できる	市民に対し、会の活動をとおして伝統文化の継承につながっており、本市の生涯学習の推進に効果がある。
補助期限（終期）を設定している。	評価	「設定済」→設定年度とその根拠を記入。 「未設定」→設定しない理由と今後の見通しを記入。	
	未設定	終期は設定していないが、補助率や補助額を検討し団体の自立を促していく。	
補助金申請に係る積算根拠が明確である。	評価	「はい」→積算根拠を何で確認しているかを記入。 「いいえ」→積算根拠が不明確である理由と今後の見通しを記入。	
	はい	収支予算書・収支決算書で確認している。	

補助金等調査表（チェックシート）

施策との整合性	当該補助金は、市の政策目的や施策と整合している。	評価	「している」→どのような点で整合しているのか記入。 「していない」→整合していないにも関わらず補助する理由を記入。
		している	補助金を交付することで、「いけばな展」などを行うことができ、「第2次浦安市生涯学習推進計画」の施策である「文化芸術活動の機会の充実」や「文化芸術団体の活動支援」につながっており、整合性が図られている。
施策との整合性	補助事業が本市の特性を生かした取り組みである。	評価	「はい」→どのような点で特性を生かしているのか記入。
		はい	各公民館等の施設で、飾花を展示することで伝統文化継承の活動に取り組んでいる。
公平性	事業を実施できる団体が他にない。（複数存在する場合、当該補助金はその事業者だけに交付される合理的理由がある。）	評価	「はい」を選んだ理由
		はい	協会であるため他にない。
			「いいえ」の場合、補助金はその事業者だけに交付される合理的理由を記入。
	補助対象経費に対して、補助事業者等にも応分の負担を求めるべき事業には、一定の適切な補助率や限度額が設定されている。	評価	「設定済」→補助率とその根拠を記入。 「未設定」→設定しない理由と今後の見通しを記入。
	未設定	適切な補助率や限度額について検討を行っていく。	
効率性	補助目的に見合った成果や、施策実現に向けた効果がある。	効果の測定方法・具体的な根拠指標	
		いけばな展・研修会の開催実績、市役所・各公民館飾花の展示	
	評価	評価理由	
	ある程度の効果をあげている	いけばな展や市役所・各公民館飾花の展示を行うことで、伝統文化継承につながっている。	
手法として、委託等の手法よりも、補助金を交付することがより合理的である。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標	
	はい	市が主体的に担う事業ではないため。	
	評価	「ある」の場合、同様な補助事業と両方存続させる理由を記入。	
補助対象経費の明確化	補助金対象内外経費が明らかになっているか。	評価	「はい」→何で確認をしているか記入。 「いいえ」→明確にしていない理由を記入。
		はい	「社会教育関係団体補助金の取り扱いについて」（内部規程）で定めている。
	補助対象外経費を補助対象としていない。（対象としている場合は、明確な根拠を持っている。）	評価	「対象としている」の場合、費目及びその根拠規定と対象となる考え方を記入。（※費目とは、飲食費や慶弔費など）
	対象としていない		

補助金等調査表（チェックシート）

※以下の項目は、団体補助金のみ記述。

団体補助金	団体の設置および活動目的が、補助事業からみて整合しているか。また、団体としての活動実態があるか。	評価	評価の理由
		はい	会則から補助金事業の整合性を確認し、いけばな展の実施、実績報告書で活動実態を確認している。
	補助事業の内容と成果について、交付団体においても対外的に情報公開を実施しているか。	評価	「はい」→情報公開の手法等について具体的に記入。 「いいえ」→実施できない理由と今後の見通しを記入。
		はい	内容については事前に文化施設や公民館等の施設で配布、「まなびねっとURAYASU」で活動報告を掲載。
	団体内で、補助金の用途や決算などの監査機能が有効に機能していて、透明性等をもって運営されているか。	評価	「はい」→どのような監査手法で実施しているか記入。 「いいえ」→機能していない理由と今後の見通しを記入。
		はい	総会や理事会を定期的に行っている。
補助金交付団体の自立性を促すことから、運営補助から事業補助へ移行を図っているか。	評価	「運営補助」の場合、事業補助に移行できない理由と今後の見通しを記入。 ※混合補助で実施している場合は、割合が大きい方を選択してください。	
	事業補助		
市職員が補助金交付団体の事務を行っているか。（行っている場合は合理的な理由があるか。）	評価	「行っている」の場合、合理的な理由を記入。	
	行っていない		
繰越金	交付団体の補助事業会計において、補助金額以上の繰越金を計上している。 （※複数団体ある場合は、各団体を一覧化したものを別紙にて提出のこと）	評価	具体的な根拠指標
		いいえ	直近決算額における補助金額 <u>140,000円</u> 繰越金額 <u>22,415円</u> <ul style="list-style-type: none"> { うち補助事業会計分 <u>0円</u> { うち団体独自会計分 <u>22,415円</u>
		繰越金額が生じた具体的な原因について記入。	
上記設問において、「はい」の場合、補助金の減額ないし、休止などの必要な対策を考えている。	評価	「はい」→具体的な対応策について記入。 「いいえ」→対応できない理由について記入。	

補助金等調査表（チェックシート）

（３） 国県要綱・近隣市補助金との比較を通じた評価

他市では、市文化協会に一括して概算払いし各団体に分配している自治体や、自治体と団体の共催事業及び団体主催事業を後援し、費用の一部を補助金として交付している。
本市には市内の文化団体を取りまとめる文化協会や、文化団体に広く参加を呼びかける事業がないため、現在のように各団体の事業に対して交付をしていくことが妥当であるといえる。

（４） 補助金の課題

発足当初は120名ほどの会員がいたが、現在は古典離れしており、45名（令和6年度4月現在）となっているため、生け花に携わる会員を増やす必要がある。

また、交付団体によって補助対象経費の取り扱いや補助率などに差異が生じているため、状況を精査しながら、補助多使用事業・経費の詳細な取り扱いのルールや、補助金額の上限や補助率の在り方について、検討を行っている。

（５） 所属長の総合評価

当該団体の活動は、いけばな展の開催や、市役所などの公共施設での飾りなどに取り組んでおり、本市の文化芸術の振興や地域づくりの推進に寄与するものである。
補助金の見直しとしては、令和3年度に補助金40,000円を削減した。さらに、今後は補助金額の上限や補助率の設定など交付の在り方を検討し、団体の自立を促していく。

（６） 補助金の今後の方向性

<input type="checkbox"/> 現行のまま継続
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しをしたうえで継続
<input type="checkbox"/> 廃止
<input type="checkbox"/> その他

その他の内容

現行継続の理由	
---------	--

見直しの時期	令和8年度
見直しの内容	現在、補助金額の上限や補助率のあり方について検討を行っており、段階的に見直していく。

廃止の時期	
廃止の理由	